MTV Networks Japan 番組審議会議事録

1. 日 時 平成 25 年 11 月 6 日 (水) 午前 10 時 30 分
2. 場 所 MTV Networks Japan 株式会社 B2F 会議室
東京都渋谷区神宮前 2-8-2
3. 出席者 審議委員総数 8 名
出席審議委員数 7 名

(出席委員名)

- 委員長 片岡 朋行 (ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士)
- 委員 金井 文幸 (一般社団法人 日本音楽制作者連盟 事務局長)
- 委員 小山 康明 (株式会社ビデオテック 取締役)
- 委員 竹村 謙二郎 (オリコン・エンタテインメント株式会社
オリジナル・コンフィデンス編集部 主任)
- 委員 松居 秀之 (株式会社ピクス 常務取締役)
- 委員 松尾 健司 (株式会社 J-WAVE 編成局次長 兼 編成部長)
- 委員 丸山 信人 (株式会社インプレスホールディングス 執行役員 CPO)

(欠席委員名)

- 委員 芳賀 康浩 (青山学院大学 経営学部 教授)

(シーエス・ワンテン)

- 今堀 元則 (代表取締役社長)
- 渡辺 慎一 (業務推進本部 業務推進本部長)

(以上敬称略)

(事業者側)

- 沼倉 重夫 (代表取締役社長)
- 太田 秀樹 (クリエイティブ&コンテンツ本部 本部長)
- 岡田 純明 (クリエイティブ&コンテンツ本部 シニアマネージャー)
- 持田 大輔 (放送メディア事業本部 本部長)

(事務局)

- 長谷川 晃二 (クリエイティブ&コンテンツ本部 シニアマネージャー)
- 矢作 美和 (役員室)

4. 議 題

- (1) MTV Networks Japan 事業報告
- (2) シーエス・ワンテン事業報告
- (3) 2013年10月の改編と現在の番組について
委員からの意見・質問と MTV の回答
- (4) 新番組の内容説明
委員からの意見・質問と MTV の回答

5. 議事内容

(1) MTV Networks Japan 事業報告：

現在の MTV の放送をまとめた映像を流し、MTV の全体像を説明。

MTV は 1981 年アメリカで誕生、24 時間ビデオクリップを放映する音楽専門チャンネルとしてスタートした。音楽を『聴くもの』から『見るもの』に変え、世界中の音楽シーンに革新をもたらした。今では世界 160 ヶ国以上に 5 億世帯を超える視聴者を持つ世界最大級のユースエンターテインメント・ブランドに成長を遂げ、視聴者、アーティスト、音楽業界から大きな支持を得ている。

日本では 1992 年の開局以来グローバルなネットワークを生かした多彩なコンテンツを日本オリジナル編成で視聴者に供給し、視聴可能世帯数は 2013 年 9 月現在、約 701 万世帯と順調に推移している。

2009 年 10 月からは既存の SD チャンネルに加えて「MTV HD」を開始、さらに 2012 年 12 月より 110 度 CS スカパー！での HD 放送をスタートした。

(2) シーエス・ワンテン事業報告：

現在 6 チャンネルを放送する東経 110 度 CS デジタル放送の衛星基幹放送事業者。昨年より MTV の HD 放送を開始。字幕放送や災害放送にも対応可能になった。加入者は約 200 万件。順調に加入者を増やしていたが昨年より加入者の伸びが低迷、視聴料半額キャンペーンやアンテナ無償提供などさまざまな施策を行っている。また、健全で魅力あるコンテンツを届ける必要があると考えている。

(3) 太田本部長より現在の MTV 編成の概要説明を行った。

10 月に大規模改編をし、新たなレギュラー番組も立ち上げた。

MTV の強みである洋楽を中心に紹介する「WORLD GROOVE!!!」、国内の音楽情報中心の「MUSIC PLATE」、日本の音楽を海外へ発信することを目的とした「MTV81」、その他「US Top50」、「UK Top50」という海外チャート番組などを中心に洋楽邦楽を折りませ編成している。

(委員からの意見・質問と MTV の回答)

*視聴者のターゲットは？

(回答) 若者を中心に、昔からの洋楽ファンや MTV ファンのニーズにも
応えるように編成している。

*音楽チャンネルは他社もあるが、チャンネルの影響力はそれぞれどうか？

(回答) 現状、MTV では洋楽、他社音楽チャンネルは邦楽を中心としている傾向
があるが、今後はジャンルの差別化だけでなく、オリジナルコンテンツ
をどう作るかがブランドや選択されるチャンネルの作り方だと考えてい
る。

*ミドル世代は子供達にチャンネルを取られる。子供達にチャンネルを取られない時間
帯にミドル世代向けのプログラムを放送してほしい。

(回答) 土日夕方にミドル世代向けのミュージックビデオ番組を編成。今後も視
聴時間帯をより意識した編成を心がけたい。

*デジタル配信でいつ何をやっているかがわかるようにすると視聴者に分かりやすい。

*ネット経由で若者へコンテンツを流していくつもりはあるのか？

(回答) 権利許諾があるものを「MTV SATELLITE」というサイトで展開中。
今後はコンテンツだけでなく SNS などの施策を積極的に行っていく
い。

*洋楽のファン層や若者がターゲットとはいえ、ニーズに対してのバランスがいまいち
わからない。深い時間帯にミドル向け番組があるのはいい。

(回答) 若者の傾向として音楽をジャンルで分けて聴いていないという傾向があ
る。10月より 21 時台にメイン番組を置き、横軸の帯ゾーン編成を意
識して改編した。

*洋楽を聴き、観られるのが一番の魅力だと思うので、視聴者にとって魅力的なプログ
ラムを増やしてほしい。

*K-POP はネットを積極的に活用している。権利処理が難しいのは分かるが、ネット上
でのつながりをうまく繋げていけたらいいのではないかと。MTV は全世界にあるので、日
本のあるものを世界のマーケットへ発信できればいい。

*現在はファン層がばらばらでそれをまとめるのが難しい。MTVには、いい音楽が売れていない状況を変えることを基盤にしてがんばってほしい。

(4) 新番組「MTV 81」をまとめた映像を流し、説明を行った。

81は国際電話での日本の国番号。日本発でアジア含め3700万世帯に向けて放送され、フランスの「J-One」での放送も予定されている。海外に向けて活動しているアーティストを中心にクールジャパンを意識し逆輸入的な番組の作り方で制作している。

(委員からの意見・質問とMTVの回答)

*とても面白く画期的な音楽番組。世界の視点が新鮮かつ、日本の視点も入っているところが面白い。インタビューが長いのでアーティスト写真的なプロモーションビデオの挿入などがあればさらにいい。

*企画は素晴らしい。MTVのストロングポイントを活かし、全世界で放送されることによりマーケットのきっかけになるとおもう。映像が素晴らしい。

*ピー音の使用は意図的な演出か？

(回答) インタビュアーのキャラクター性、また、番組上の演出として実施。
今後は視聴者からの見え方も意識して判断して行く予定。

*絵は素晴らしいが、音声的には残る内容があったかがわからない。毎回内容のあるインタビューの編集を考えてほしい。

*内容が東京に寄っていたが、日本、東京どちらをターゲットにしてカルチャーを発信することを想定しているのか？

(回答) 基本的には日本のカルチャーを発信する番組。番組立ち上がりという事もあり、カルチャーの中心である東京がピックアップされているが、今後は日本全国の音楽やイベント、カルチャーを発信していきたい。

*コンセプトが素晴らしいので、世界に広げて行ってほしい。音楽中心にモノ、アニメや富士山なども取り上げ広がりを持たせてほしい。

*アーティストが日本人に向けて話している気がする。アジアの製作者の視点がほしい。アーティストの人となりを観られる番組は貴重なので、前後に取り上げたアーティストのパフォーマンスをちゃんと見られる番組があるといい。

(回答) 「JAPAN HITS」という邦楽ミュージックビデオ番組がアジア全域で放送されている。制作体制に関しては半分外国人でやっているが今後はよりアジア人の意見を取り入れるなど改善をして行きたい。

*海外の人に日本に興味を持ってもらうという視点で制作しているのか？アーティストの詳細についてももう少し踏み込んでいいのでは？

(回答) 海外放送については、多くの視聴者が出演アーティストを知らない状況があるためアジアチームからもアーティストの背景について知りたいとの意見が来ており、随時改善をしている状況。音楽の本質に踏み込んでいけるよう番組構成も改善したい。

*逆輸入っぽくはなるが、英語の字幕は煩わしいので外してもいいのでは。

*リリース情報や海外配信情報を番組もしくはウェブで知らせてほしい。

*ロケ地として、富士山など代表的なアイテムを入れてもいいのでは？

*クールジャパンとして企業と合せて海外へ向けて放送したらどうか？

(回答) MTV 全体として海外進出を考えている企業との連動を積極的に検討しており、アジア全域での企業とのコラボレーション CM、および番組展開を実施している。

*テレビとウェブの連動は、ストックに対してどう対応していくかが課題。ストック化へのニーズを番組表だけでも対応できるようになるといい。リリース情報や出演情報などを MTV が Hub となりリーディングカンパニーとして提供してほしい。またインタラクティブコンテンツを増やし、色々なコラボレーションもして行ってほしい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた平成25年11月6日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

平成25年12月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

8. その他の参考事項

平成 25 年度下期の番組審議委員会は平成 26 年 2 月または 3 月に開催予定。

以上